北部小 学校だより

松戸市立北部小学校
令和８年 10 月 26 日
http://www.matsudo.ed.jp/hokubu-e　特別号

学校教育目標　　かしこく　やさしく　たくましく　未来を拓く　北部の子
～ワクワク勉強　ニコニコ生活　モリモリ元気～「笑顔」いっぱい北部っ子

令和８年度全国学力・学習状況調査　結果分析

６年生が１学期に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を分析しましたのでお知らせします。分析結果を今後の授業改善に役立てていきます。ご家庭でも参考にしてください。

【調査の内容】

国語　　算数　　質問紙調査

【調査の結果】

全国平均を１００とした標準化得点で比べると，国語，算数ともに全国をやや上回る結果であった。

【結果の分析】

どちらの教科も，文章で解答を記述する問題の正答率がやや低い傾向であった。

国語

〇言葉の特徴や使い方に関する基礎的な知識・技能は定着している。
〇物語文や説明文を読んで，自分の考えを書くために必要な情報（語句）を見つけ，経験と結びつけてまとめる力がついてきた。
▲目的や意図に応じて文章を書くことに課題がある。
▲文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。
▲引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

＜今後の学習のポイント＞

・日頃の漢字練習の際に，漢字の意味や成り立ちなどの基礎的な事項も大切にしていく。
・文章を書く際には，相手（読み手）を意識し，「事実と意見」「疑問と解決」など繋がりや配列を意識して，筋道を整えて書けるようにしていく。
・段落分けや，見出し付けで内容のまとまりを問う活動を意識していく。
・「引用すること」「引用に対して自分の考えを書くこと」については，教科等横断的に自分の考えを簡潔に表現する機会を設けるなど引き続き取り組む。

算数

〇体積の意味や求め方について理解している。
〇数を四捨五入して，概数で表すことができる。
〇小数の意味や仕組みを理解している。
▲題意を理解し，全ての条件を満たした文章を書くこと（正答の条件，字数制限など）。
▲「単位量当たりの大きさ」を求める除法の式の意味や商の意味を理解することに課題がある。
▲「二次元表」から，条件にある数を読み取ることに課題がある。
▲基準量，比較量，割合の関係を捉えることに課題がある。

＜今後の学習のポイント＞

・「二量（異種含む）を比較する」問題では，問題場面をイメージしやすくしたり，数量関係を図に表したり，言葉の式にしたりするなど，思考の段階を追いながら確認する。

・各学年で扱う「倍」の見方や意味を扱う際に，必ず「基準量」を確認するようにする。

・算数で学んだデータの読み取り方（表やグラフの読み取り）を教科横断的に捉え，複数の統計データを関連付けて読み取ったり，読み取ったことを言語化したりする活動を行っていく機会を設ける。

質問紙調査

＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」

・「友達関係に満足していますか。」

・「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」

・「総合的な学習の時間では，PC・タブレットなどの ICT 機器を使って，うまく情報を集めたり，整理したり，発表したりできていますか。」

様々な質問項目の結果から，本校の児童は素直で前向きな児童が多く，男女分け隔てなく接することができていることがわかった。これまで本校の児童の課題であった「自己肯定感」の低さに関して，児童同士や児童と教職員の良好な信頼関係のもと，日々の教育活動や各行事活動において，結果だけでなく，その結果に至るまでの取組の過程を大事にし，全体で共有しながらよりよい学校や学級の雰囲気作りに努めてきたことが良い影響をもたらしてきていると考えられる。ただ，一定の割合で否定的な思いを持つ児童もいることも踏まえ，皆で高め合える肯定的な人間関係を今後も構築していきたい。

また，一人１台端末が配付されてから，タブレットを教育用具の一つと捉え，授業内だけでなく様々な活動時に活用する機会を設けてきている。特に個々の調べ学習や，考えを共有する際などに活用することで，児童もその効果を実感できていると考えられる。

＜否定的な回答の割合が高い項目＞

・「新聞をどれくらい読んでいますか。」

・「あなたの学級では，人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。」

全国的にも新聞を読まない児童が多いが，本校においても同様の傾向が見られた。図書室の「子ども新聞」を読む機会や，自主学習ノートを活用して社会情勢に対する自分の考えをまとめる機会等を意図的に設けていきたい。

また，多様性を育む学校社会の中で，「他者を認める」「他者の気持ちを考える」等の他者意識を高めていきたい。「価値観の違う友だちとどのように接していくか」ということを，生活の中で，また道徳や学級活動等の授業の中で，機を逃さず指導に当たっていきたい。

本校では「かしこく　やさしく　たくましく　未来を拓く　北部の子」を学校教育目標に掲げ，授業改善や子どもたちの規範意識・自己有用感を高める支援，教職員の資質能力の向上などに努めています。学校教育活動は教職員だけでなく，家庭や地域との連携・協働なしでは成り立ちません。今回の調査結果を今後の学校経営に反映させ，「地域とともに歩む学校づくり」を一層進めてまいります。

今後もご協力よろしくお願いします。